

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱や器楽の活動では、児童同士での聴き合いを意識させることで、美しい音で演奏することができるようになった。
- ・グループでの音楽づくりを行うことで、互いの意見を共有して合意形成をしながら、まとまりのある音楽をつくることができた。
- ・鑑賞活動を充実させることで、より音楽への興味を引き出すことができた。

(2) 課題

- ・児童が得意か不得意かによる能力差が大きい。
- ・楽譜に関する記号に苦手意識がある児童が多い。
- ・楽曲に思いや意図をもつことが難しい。

2 授業改善のポイント（観点別）

・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽しみながら歌や鍵盤ハーモニカに取り組めるようにする。低学年では、自分から声を出して歌うことや、鍵盤ハーモニカの基礎的な技能の習得を目指す。	音楽で表現をすることに対し、前向きに取り組めるようにする。身体で表現する活動を効果的に取り入れながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、表現したり音楽を聴いたりできるようにする。	楽しく音楽に関われるようにする。協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむ態度を育てる。

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽の用語や階名に関する知識を定着させるため、繰り返し学習に取り組ませる。中学年になり、必要な知識が多くなるが、歌や楽器の技能と結び付けられるようにする。	鑑賞教材では、様々な発想を広げて鑑賞できるようにする。児童の感性を豊かにしながら、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようにする。	3年生ではリコーダーが始まるため、粘り強く練習できるように指導する。児童全員がわかるように指導を行い、個々の能力差を埋め、意欲的に取り組む児童を育てる。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
二部合唱の経験や合奏の経験を積んでおり、より難易度の高い教材に取り組ませる。少人数で歌う経験や、児童主体の練習などを行うことで、自信をもって表現できるようにする。	歌唱教材では、楽曲の背景を想像できるようにする。教材に対してどのような思いや意図をもって表現したいかを思考させる授業を行うことで、より教材を深く理解して表現できるようにする。	音楽表現に対して、主体的に、自信をもって取り組むことができてきている児童が多くいる。一方で、自信のなさから歌わない、話し合い活動に参加しない児童もいるため、個別に声をかけて参加を促していく。